



公益社団法人隊友会 会長

西 元 徹 也 様

謹 啓

初夏の候、ますますご健勝のことと、お喜び申し上げます。

平素は海上自衛隊に対し格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度、海上自衛隊第5護衛隊、護衛艦「いかづち」、護衛艦「さわぎり」のソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動水上部隊の出港に際し、温かい激励の品を頂戴し、乗員を代表して厚く御礼申し上げます。

当隊は、ご承知のとおり5月11日に横須賀から「いかづち」、12日に佐世保から「さわぎり」が出港しました。約1か月かけてアデン湾に到着、第11次隊の第1護衛隊、「むらさめ」及び「はるさめ」から任務を引き継ぎ、第12次隊としての護衛任務を開始したところであります。

当地ジブチは、世界で最も暑い場所の一つと言われ、陸上では40度を超える暑さとなっており、海上におきましては、強い季節風による砂塵に悩まされておりますが、乗員一同元気に任務に励んでおります。



ジブチには、我々のほかに、P-3Cにより上空から海賊を警戒監視する派遣航空部隊の第10次隊が、沖縄の第5航空群を中心として派遣されており、お互い連絡・調整をとりながら任務にあたっております。ジブチ入港中には、狭い艦内を離れ、派遣航空基地の売店、喫茶、体育艦等を利用し、リフレッシュしております。

また、ソマリア沖アデン湾には、海上自衛隊のみならず、欧米をはじめとする他国の海軍も海賊対処にあたっており、情報交換を実施しております。同海域に派遣されている外国艦艇等と連携することは、国際社会の一員として、その責務を果たすことにつながるものと考えております。

一方、艦内での生活は、狭くプライベートな空間がないため、ストレスが溜まりやすい環境ではありますが、甲板上でのランニングや家族とのメール等により、各人工夫してストレス発散に努めております。先日は、イルカの歓迎を受け、すぐ目の前をジャンプし、乗員を癒してくれました。

護衛任務はまだ始まったばかりであり、油断や慢心は許されず、今後引き続き緊張感を維持し任務にあたるのが重要であると考えております。乗員の健康に留意して、仕事と休養のバランスをとり、任務を無事終了し、全員が笑顔で帰国できるよう、一丸となって任務に邁進する所存であります。



なお、最近の護衛の状況、日常の訓練、艦上での乗員の生活の様子等を撮影した写真を同封いたしますので、我々の活動の参考にさせていただければ幸甚です。

今後ともご理解ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬 白

平成24年6月

第12次派遣海賊対処水上部隊指揮官

第5護衛隊司令

山 崎 三郎